

地域公共交通計画の 基本方針と目標の設定について

令和3年（2021年）8月2日
能勢町



能勢PR キャラクター
「お浄・るりりん（アマビエver）」

1. 地域公共交通計画に必要な記載事項

- 本計画は「交通政策基本法」の基本理念をもとに、令和2年（2020年）11月に一部改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき策定する法定計画である。
- 本計画は法定計画であるため、「計画に記載が必要な事項」が定められている。

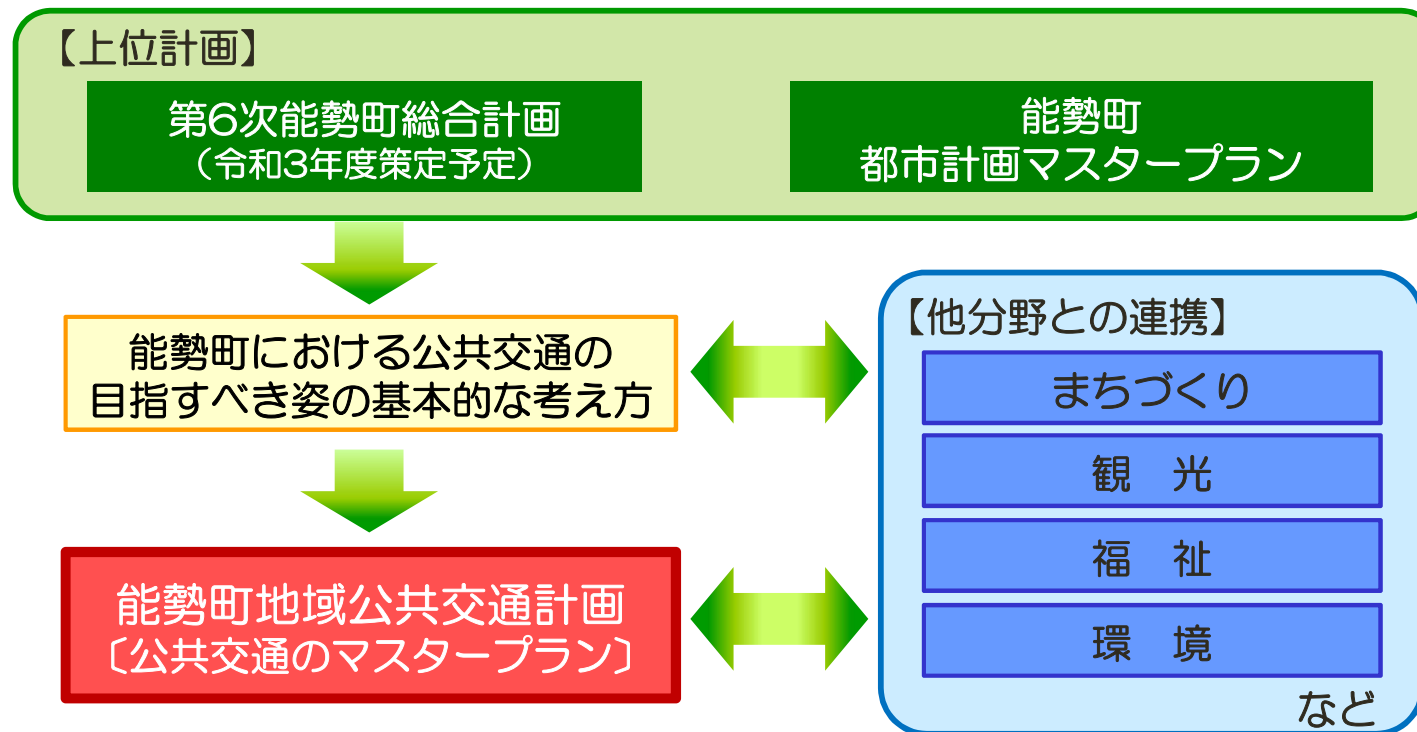
● 地域公共交通計画における法定の記載事項

記載事項	概要
① 基本的な方針	計画が目指すべき将来像と、その中で公共交通が目指すべき役割を明確化し、取組の方向性を定める。また、まちづくり、観光振興等の様々な分野との連携を整理する。
② 計画の区域	当該地域の交通圏の範囲を基に計画の区域を設定する。
③ 計画の目標	①の基本的な方針に即して目標を設定する。
④ 事業・実施主体	目標達成のために提供されるべき地域旅客運送サービスの全体像・具体的なサービス水準を定める。併せて、その実現に必要な事業・実施主体を整理する。
⑤ 計画の達成状況の評価	達成状況の評価計画と評価を踏まえた見直し方針を立てる。
⑥ 計画期間	原則5年程度であるが、地域の実情に合わせて設定する。
⑦ その他	その他、基本方針に基づき記載すべき事項があれば記載する。

2. 計画の位置付け

- 上位計画である「第6次能勢町総合計画（令和4年（2022年）の策定予定）」、「能勢町都市計画マスタープラン」と整合を図りつつ、地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス、タクシー等の旅客運送の確保をはじめ、その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に向けて、能勢町における公共交通の目指すべき姿の基本的な考え方を令和2年（2020年）3月にとりまとめている。
- 本計画（能勢町地域公共交通計画）は、能勢町における公共交通の目指すべき姿の基本的な考え方の「目指すべき公共交通体系の考え方（案）」を実現するために、基本方針・目標・目標を実現するための施策を体系的に整理した能勢町における公共交通のマスタープランである。

● 本計画の位置付け



3. 計画の区域と計画期間

■ 計画の区域

○ 計画の区域は能勢町全域とする。



西地域	天王地区	天王
	岐尼地区	上杉、平野、稲地、森上、今西、神山、長谷、垂水、山田、上山辺、東山辺
	久佐々地区	宿野一区、宿野二区、宿野三区、宿野四区、宿野北区、宿野みどり区、宿野東区 大里、柏原、栗栖、片山、平通、松風台、下田
東地域	歌垣地区	嘉村、西村、上村、長尾、和田、吉野、山内、杉原
	田尻地区	田尻上、田尻中、田尻下
	東郷地区	地黄北、地黄南、野間中、野間稲地、野間出野、野間大原、野間西山

■ 計画期間

○ 計画期間は、令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間とする。

○ また、目標の達成状況や社会・経済情勢などの変化等に応じて、必要な見直しを行うこととする。

4. 計画の基本方針

■基本方針の設定

- 上位計画や関連計画、公共交通を取り巻く課題、能勢町における公共交通の考え方及び公共交通の果たすべき役割を踏まえ、以下の基本方針を設定する。

【計画の基本方針】

いつまでも安心できる暮らしとまちづくりを支える公共交通

- 第6次能勢町総合計画は、第5次能勢町総合計画の次期計画として、令和4年(2022年)の策定に向けた検討を進めている。令和2年(2020年)10月に実施した住民アンケートのうち、暮らしの基盤づくりの施策の評価について、公共交通施策となる「公共交通の配備等による交通網の充実」は、今後の重要度が高い結果となっており、優先して充実が求められる施策に分類される。
- また、まちづくりの取組として、能勢町役場新庁舎が令和3年5月に開庁し、東地区の福祉拠点施設となる旧歌垣小学校の再編整備及び旧東郷小学校周辺の再編整（さとおか防災コミュニティセンター）が進められており、地域の拠点を結ぶネットワーク化に向けた検討を行い、地域間交流を促進するような公共交通サービスの構築が必要となる。
- 能勢町における公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、公共交通を必要とする高齢者は、今後も増加が見込まれる。そのため、高齢化の進展や人口減少に対応した日常生活を支える公共交通サービスの構築が必要となる。
- したがって、上位・関連計画との整合を図り、能勢町の地域特性や住民ニーズに対応した公共交通ネットワークを構築していくものとする。
- 持続可能な公共交通網を構築するためには、行政や交通事業者などが単独で取り組むのではなく、住民、交通事業者、行政が連携する必要があるため、それぞれが担う役割を認識し、主体的な取組を展開していくことができる公共交通を支える仕組みも構築していくものとする。

5. 計画の目標

■計画の目標の設定

○ 計画の基本方針に基づき、以下の目標を設定する。

目標① 持続可能な公共交通ネットワークの構築

公共交通の運行経費に係る財政負担について制約があることを踏まえ、地域特性に応じた適切な交通モードの活用による運行の効率化及び公共交通の利便性の向上を図り、利用者及び運賃収入を増加させる取組を進めるとともに、地域住民に支えられ、親しまれる公共交通に育てることが重要となる。自動車を運転できない学生をはじめ、更なる高齢化の進展により、自動車での移動が困難になる人や運転免許証を返納する人の増加が見込まれる中で、多様化する移動目的への対応等、多様なニーズに対応する必要がある。

このため、各交通モードの役割や機能分担を明確にし、合理的で効率的なネットワークの形成を図るとともに、地域特性に応じた公共交通サービスを提供し、行政、事業者、地域が一体となって、公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、かつ将来にわたって持続性を高め、柔軟な公共交通体系の構築を目指す。

また、町内における公共交通の拡充と持続性のあるものとするために、補助制度等の活用も考慮した一定の財政投資を行うとともに、交通事業者と連携して利用状況等のモニタリングを継続して実施し、必要に応じた見直しの検討及び実施ができる仕組みの構築を図る。

5. 計画の目標

目標② 公共交通機関の相互による連携強化と利便性の向上

新たな公共交通システムの導入に当たっては、既存の公共交通との機能・棲み分けが必要であり、これらの考慮がなければ、既存の公共交通への影響が大きく、路線バスやタクシーの廃止・撤退につながるおそれがある。

また、公共交通利用者の維持・増加を促すためには、移動ニーズに応じた地域公共交通ネットワークの形成とともに、サービス内容の改善により利便性を強化することやわかりやすい情報提供も求められる。

このため、路線バスやタクシーと新たな公共交通システムとの適切な機能・役割分担を図り、住民・利用者ニーズに応じた乗継拠点の整備、既存ストック（主要施設やバス停など）を最大限に活用して公共交通相互による連携強化を目指す。

また、ICT（情報通信技術）などの技術革新の動向を見据えつつ、わかりやすい利用者目線に立った情報提供等を充実させるとともに、誰もが利用しやすい公共交通環境の整備を図ることで、利便性の向上を目指す。

目標③ 公共交通をみんなで創り、守り、育てる意識の醸成

公共交通によるサービスが安定的・持続的に提供され続けることが重要であり、住民（地域）、交通事業者、行政等がそれぞれの役割分担のもと、連携・協働し取り組む必要がある。

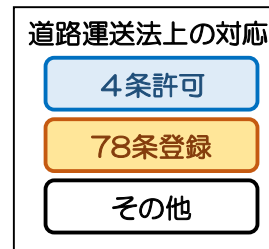
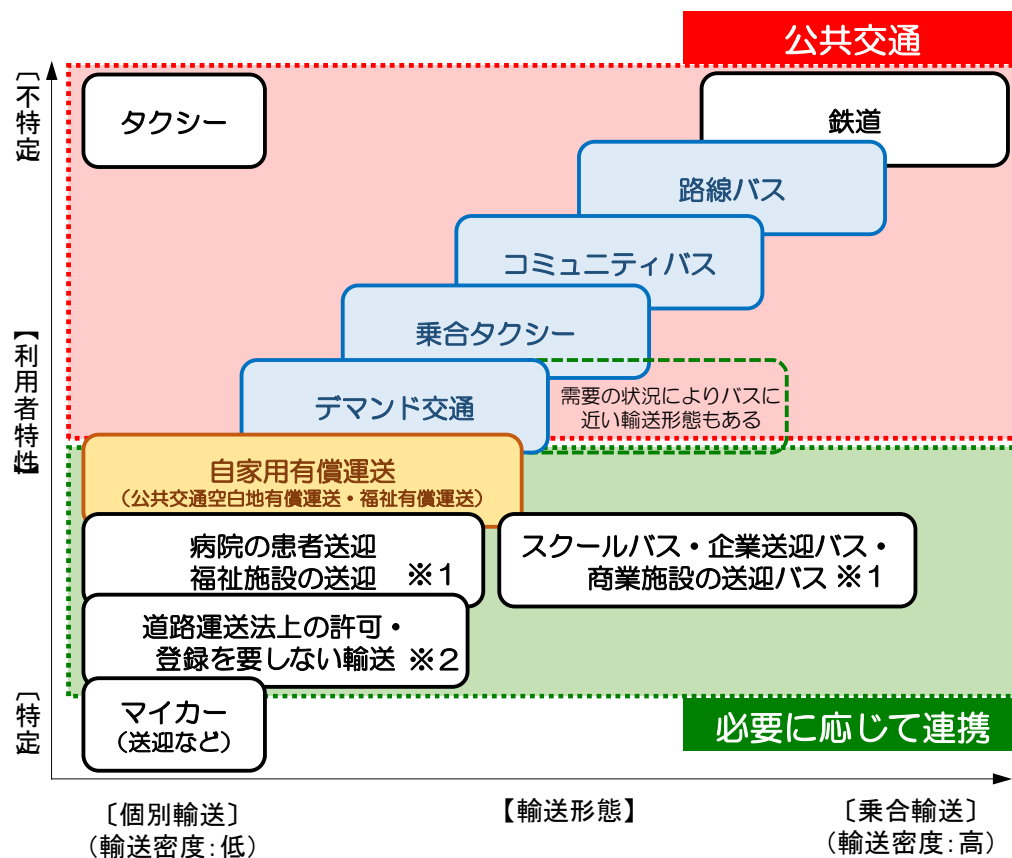
今後、増加が見込まれる自由目的移動や公共交通利用のニーズに対して公共交通の持続性を高める観点から、利用者である地域住民が主体となって、公共交通を守り、育てていく意識の醸成を図る。

また、公共交通の持続的な運行を確保するため、交通事業者と連携し、公共交通事業の維持に向けた取組や継続性を見据えた担い手の確保・育成等に努める。

6. 能勢町における公共交通の考え方

- 能勢町の公共交通は路線バス、タクシーがある。
- 公共交通は、自家用車での移動が困難な高齢者や学生等を中心とした移動手段を持たない方の日常の移動手段確保、交通不便地域のニーズへの対応が強く求められる。
- 高齢者や障がい者が自立的に生活できる環境整備の一環として、移動手段を確保することによって、外出機会の創出による健康増進、地域活性化への寄与も期待される。
- なお、利便性や効率性の視点から、必要に応じて、特定多数を対象とする福祉交通、利用目的が限定的な民間送迎サービス及び道路運送法上の許可・登録を要しない輸送（無償輸送（ボランティア輸送））との連携についても、検討を進める。

●利用者特性と輸送形態による地域公共交通の位置付け



※1：様々な運行形態で行われている（無償の場合は道路運送法の対象外）
 ※2：互助による輸送（≒無償によるボランティア輸送等）

7. 目指すべき公共交通体系の考え方

■公共交通体系の基本的な考え方

- 今後も持続可能な公共交通のあり方を検討するにあたっては、各交通モード単独で利便性や生産性の向上を図るのではなく、各交通モードで役割分担を行いながら、全体的に連携強化を図る必要がある。
- このような考え方のもと、能勢町の公共交通について、現在の運行状況や役割を踏まえ、「基幹交通」、「地域交通」に機能分類し、階層的なネットワークの構築を目指すものとする。
- 公共交通網の基本的な考え方を踏まえた公共交通ネットワークの構築を目指すべく検討を行うものとする。

●能勢町における公共交通の役割分担と位置付け（案）

機能分類	役割	対象交通モード
基幹交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内と町外の鉄道駅を結ぶ広域交通体系の骨格を形成し、町外への通勤・通学等の町民の移動や能勢町への来訪者の移動のための広域的な移動を支える役割を担う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バス（西能勢線・妙見口能勢線）
地域交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹交通が乗り入れ困難な生活圏内の移動を支え、基幹交通や町内の拠点へのアクセス手段として、町内移動を支える役割を担う ・ 基幹交通では、対応しきれない需要が分散・少ない地域を補完する新たな公共交通として新たな交通システム（※交通モードは今後検討予定）を『地域交通』として位置付ける ・ タクシーは、他の公共交通機関が運行していない時間帯を補完するとともに、住民及び来訪者の移動等の柔軟に対応可能な移動手段として、能勢町の公共交通として位置付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな交通システム ・ タクシー



必要に応じて連携

特定の利用者を対象とした交通

- ・ 自家用有償運送（公共交通空白地有償運送・福祉有償運送）
- ・ スクールバスや民間送迎バス

道路運送法上の許可・登録を要しない輸送

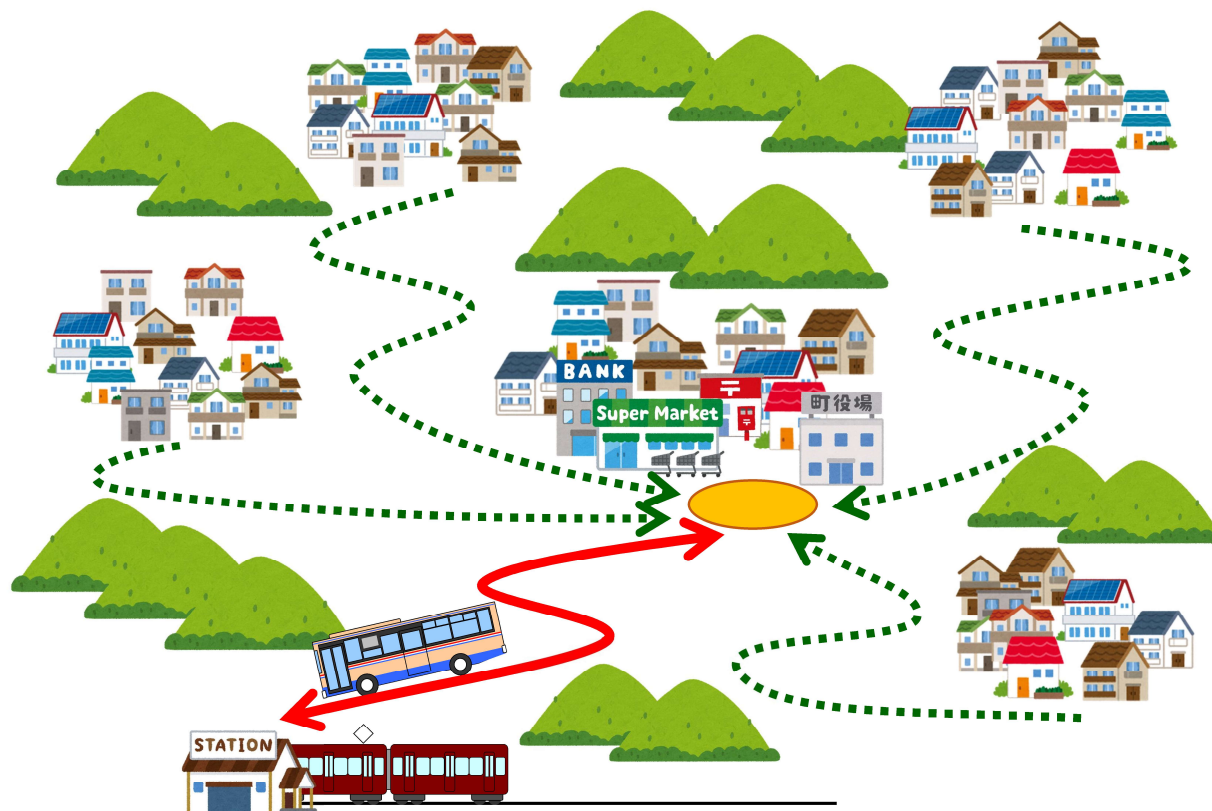
- ・ 無償運送（ボランティア輸送）

7. 公共交通の目指すべき基本的な考え方

■能勢町の目指すべき将来の公共交通ネットワーク

○ 町内の拠点間、町内の拠点と町外の鉄道駅間、あるいは拠点と居住エリアの移動をスムーズにし、町民の外出機会を創出するとともに、拠点に人を集めることで、地域の活力向上を促すことと、乗換えの拠点を設けてそこで基幹交通と地域交通を乗り換えて輸送の効率化を図る公共交通ネットワークの構築をめざします。

●能勢町の目指すべき将来の公共交通ネットワークイメージ



- ◆基幹交通は、町内の交通結節拠点と町外にある能勢電鉄の鉄道駅を結ぶ
- ◆地域交通は、町内の各地区と町内の拠点となる交通結節拠点を結ぶ